

高取町与楽古墳群周辺地区まちづくり基本構想

目次

1. 高取町の概要	1
2. まちづくり基本構想の基本的な考え方	6
3. 地区の概要	7
4. 地区の課題整理	14
5. コンセプト、目標	18
6. 基本方針	18
7. 基本となる取組	19
8. 基本構想図	22

1. 高取町の概要

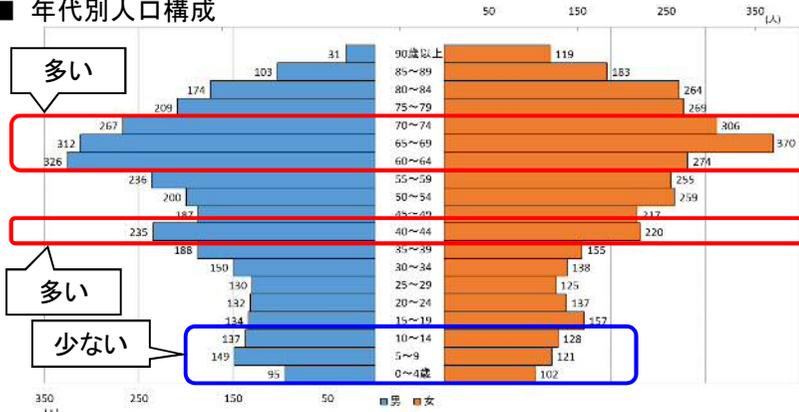
■ 人口

- 年代別人口は、60歳代～70歳代前半の層と現在40代前半となる第二次ベビーブーム世代が多い。年少人口は少なく、少子化の傾向にある。
- 総人口は、戦後微増したが、その後は減少傾向にある。

総人口	男	女
7,195人	3,396人	3,799人

資料：国勢調査（2015（平成27）年 10月1日現在）

■ 年代別人口構成



資料：国勢調査（2015（平成27）年 10月1日現在）

■ 総人口の推移



※ 1947, 1950年は船倉村、越智岡村、高取町との合算値となる。

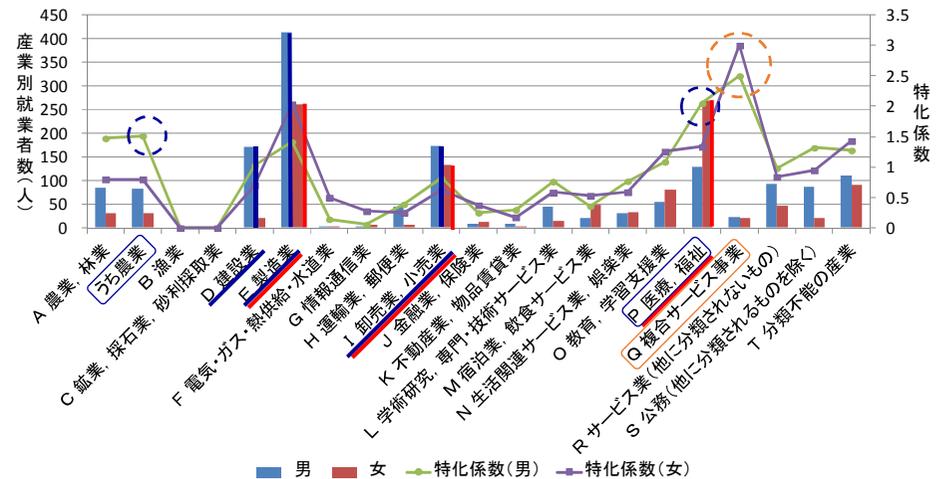
資料：1960年（昭和35年）以前は国勢調査、1965年（昭和40年）～2010年（平成22年）は「奈良県推計人口調査」（奈良県統計課 各年10月1日現在）、2015年（平成27年）は国勢調査（10月1日現在）

■ 産業

- 男性は、製造業、建設業、卸売・小売業の順に就業者数が多く、女性は製造業、医療・福祉、卸売・小売業となっている。
- 特化係数※をみると、男女とも複合サービス業（郵便局、農協等）、製造業で高く、男性では農業、医療・福祉で高くなっている。
- 一方、高取町の主要産業である製造業（菓産業）は、高齢化が進行しつつあり、農業も後継者不足等による耕作放棄地が増加している。

※ X産業の特化係数=高取町のX産業の就業者比率/全国のX産業の就業者比率

■ 従業地による産業別就業者数と特化係数



出典：2010年（平成22年）国勢調査

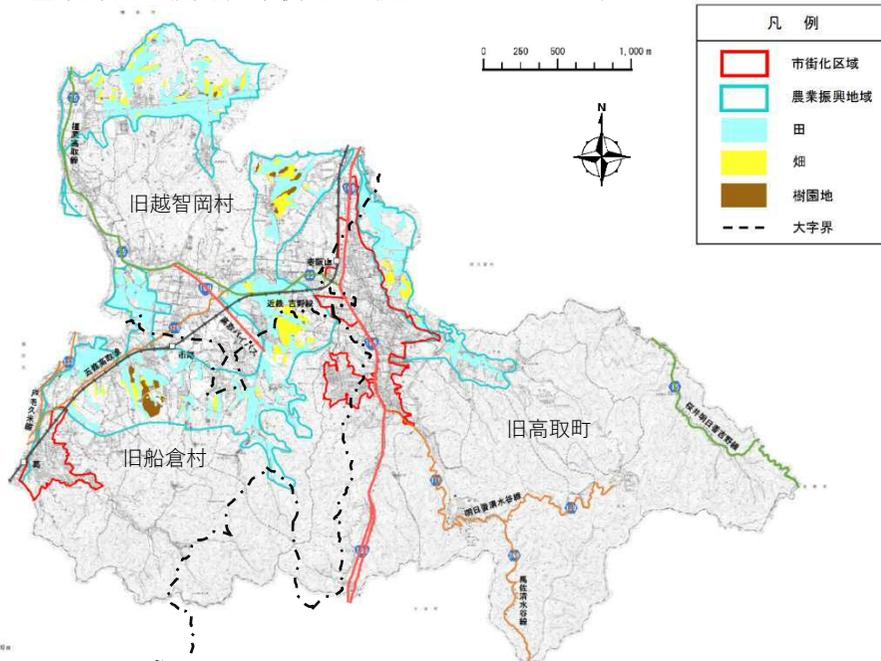
脅威：人口減少、少子高齢化の進行

1. 高取町の概要

■ 農業

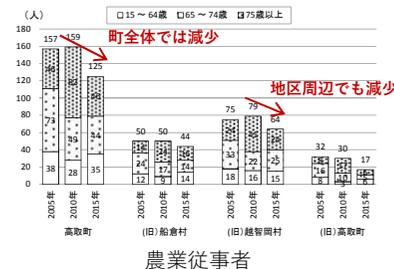
- 高取町では、低地を田地として、その上方を畑地として活用する特徴的な農業地域を形成している。
- 樹園地は町北東部と西部の一部地域のみで見られる。
- 農業振興地域は高取町の北部、および中部で指定される。

■ 高取町の農地分布状況 (1:10000 高取町全図を元に作成)



■ 地区別農地・農業従事者の推移

資料：2005年農林業センサス、2010年世界農林業センサス、2015年農林業センサス
 ※ 与楽古墳群周辺地区は、(旧)越智岡村の一部地域にあたる



脅威：人口減少、少子高齢化の進行 / 農業従事者の減少、高齢化

■ 高取町の特産品

- 高取町の主要産物は米、なす、ほうれんそう、いちご、きゅうりで、中でも、ほうれんそう、いちごが特産品であるが、知名度が低い。

■ 薬のまち高取復活プロジェクト事業

- 平成24年度に「漢方推進プロジェクト」を立ち上げ、薬草を加工・販売する6次産業化を進め、現在はまちづくりの一環として、「薬の町高取復活プロジェクト」事業を推進。
- 薬草栽培では耕作放棄地を活用し、25戸が参加、計約1haの畑でヨモギやハトムギ、ハブ茶などを栽培。
- 薬草の大和当帰の葉のエキスを使った入浴剤や、大和当帰の葉・ハトムギなどを使った「やまとたかとりやくぜん茶」を地元企業等とともに協働開発。



大和当帰の栽培の様子



入浴剤



茶・香塩

■ グリーンツーリズム

- 都市農村交流の一環として、高取町市尾で農村の活性化に取り組む「農(のう)ある高取推進協議会」が、特設の田んぼで宝さがしや泥んこリレー等を開催。



泥んこ祭りの開催状況

出典：高取泥んこ祭りHP

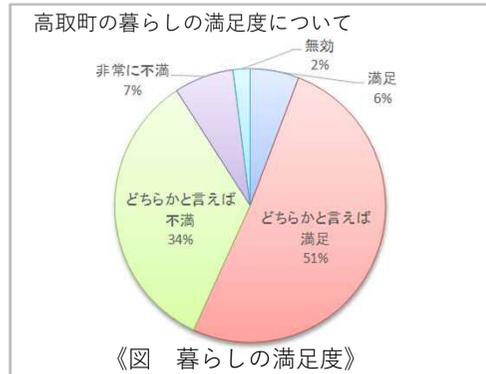
強み：町の特産品である薬草を用いたプロジェクトが進行している。

1. 高取町の概要

■ 住民意識

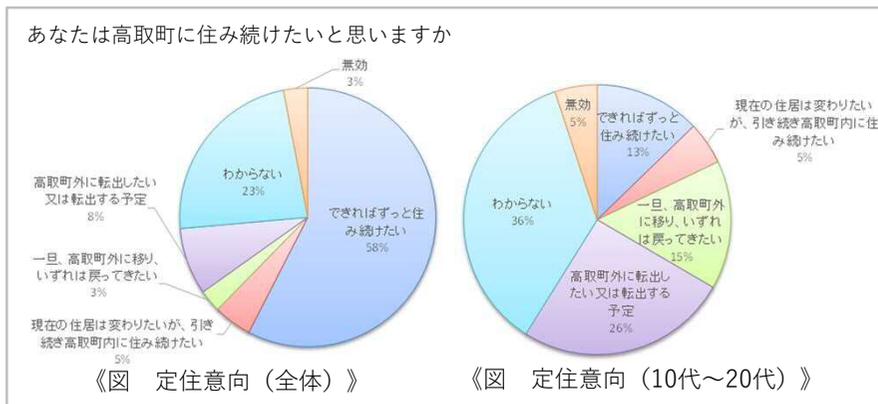
■ 暮らしの満足度について

- 住民アンケートでは、高取町での暮らしの満足度は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と答えた人が最も多く、約6割を占めるが、約4割は不満と回答している。



■ 定住について

- 定住・移住について、高取町に「住み続けたい」と回答した人は多いが（約60%）、「転出する予定」と回答した人も一定程度いた（約10%）。10代～20代だけで集計すると、「わからない」、「転出する予定」と答えた人が多く（約60%）、若い人は転出意向が強いことが伺える。
- 転出意向の理由では「買物等日常生活が不便だから」「交通の便が悪いから」「仕事をする場所から遠いから」が多く、若い世代の転出抑制や町内での暮らしやすい環境整備に取り組む必要がある。



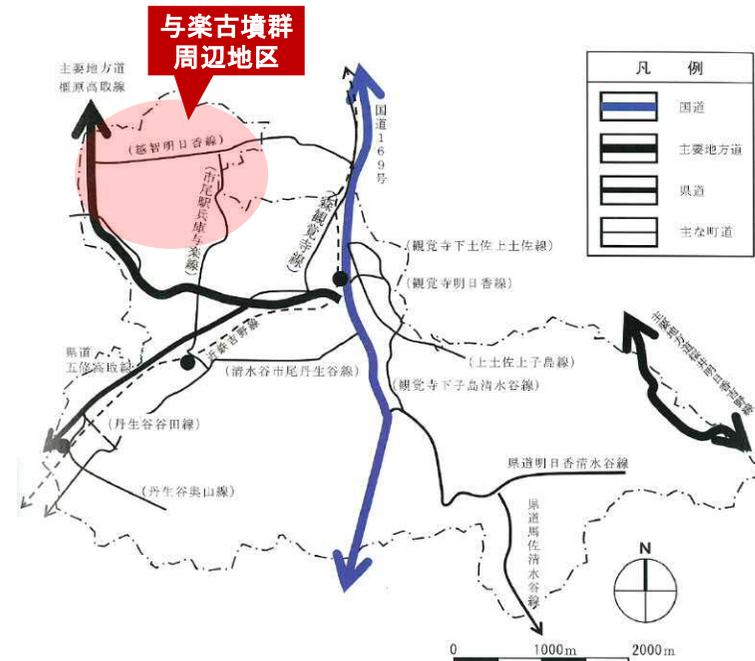
資料：「高取町人口ビジョン」（平成28年3月 高取町まちづくり課）

脅威：10～20代の定住意向が低い。

■ 交通

■ 道路

- 町の中央を南北に国道169号が通っており、これに主要地方道、県道、町道が繋がり道路網が形成されている。
- 土佐街道（町道上土佐上子島線）は、生活道路と観光景観道路の両面の特性を有する路線となっている。



■ 鉄道

- 町の中央を南北に近鉄吉野線が通っている。町内の駅は、壺阪山駅、市尾駅、葛駅の3駅。壺阪山駅が、町役場など中心地に近く、町の玄関口となっており、年間40万人強の利用がある。

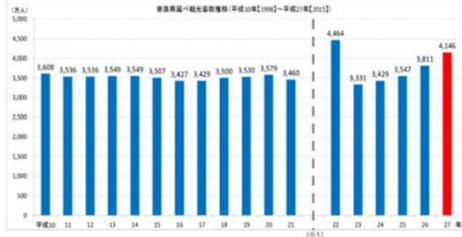
資料：「高取町総合計画」（平成18年3月 高取町）

1. 高取町の概要

■ 奈良県の観光動向

■ 奈良県延べ観光客推移

- 奈良県の観光客数は、平成27年は約4,146万人で前年比335万人の増加である。平成23年以降、増加傾向が続く。



H27年
4,146万人

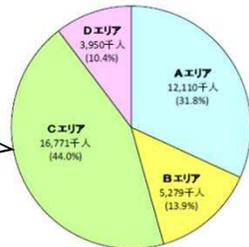
資料：「奈良県観光客動態調査報告書」（奈良県観光局ならの観光力向上課）

■ エリア別観光客数

- 高取町が属するCエリアの観光客数は、平成27年は1,701万人で、奈良県内の41.0%を占め、最も多い。
- Cエリアは前年比で24万人の増加である。

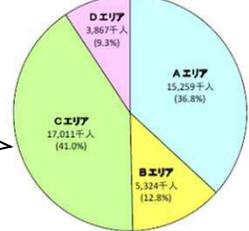
《平成26年》

Cエリア
1,677万人
(44.0%)



《平成27年》

Cエリア
1,701万人
(41.0%)



Cエリア
天理市、橿原市、
桜井市、宇陀市、
曽爾村、御杖村、
高取町、明日香村

資料：「奈良県観光客動態調査報告書」（奈良県観光局ならの観光力向上課）

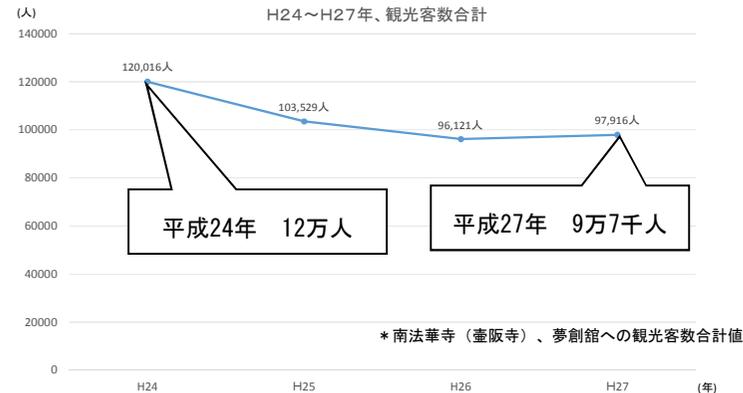
強み：高取町を含む周辺地域の観光客数は奈良県下で最も多い。

機会：奈良県では、近年、観光客が増加傾向にある。

■ 高取町の観光動向

■ 高取町の観光客数の推移

- 高取町の近年の観光客入込客数は、約10万～12万人程度である。
- 高取町への観光客入り込み数は、奈良県Cエリアの総観光客数の1%程度である。



平成24年 12万人

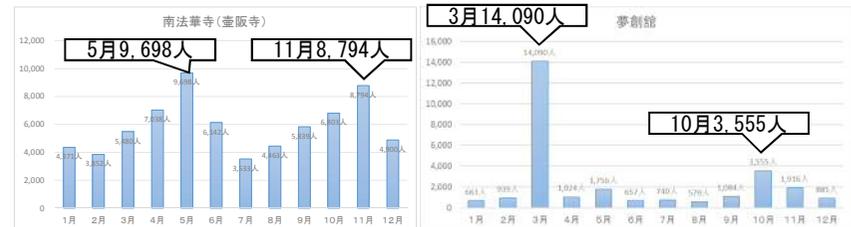
平成27年 9万7千人

* 南法華寺（壺阪寺）、夢創館への観光客数合計値

《図 平成24年～27年 観光客数の推移》 資料：高取町

■ 高取町 主要施設における月ごとの観光客数の推移（平成27年）

- 月ごとの観光客数の推移では、壺阪寺は5月、11月に多い。夢創館へは雛めぐりイベント実施期間の3月が、14,090人と突出して多く、次に10月、5月と続く。
- その他、高取町、町家の雛めぐりやたかとり城まつり等のイベント等もあり、全体としてはもう少し観光客は多いと考えられる。



《図 月ごとの壺阪寺観光客数》

《図 月ごとの夢創館観光客数》

資料：高取町

弱み：周辺地域の観光客数に対し高取町への観光客数は少ない。

1. 高取町の概要

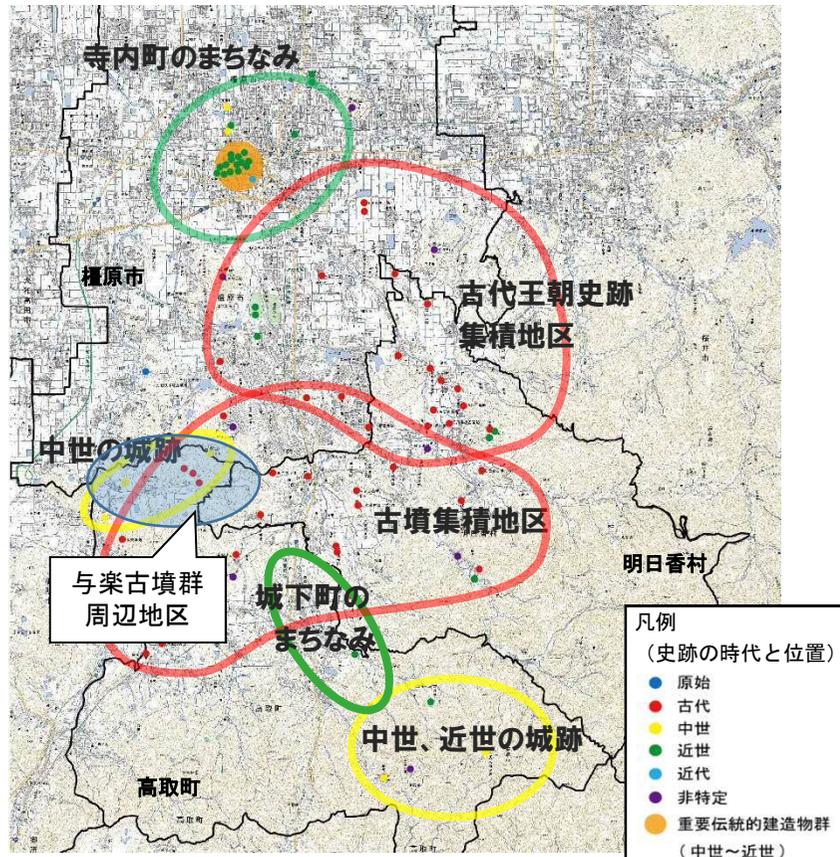
■ 高取町とその周辺の主な地域資源

■ 高取町の観光資源

- 町域の北西部には古墳群、東部には土佐街道、南東部には高取城跡や壺阪寺等、ほぼ全域に渡り観光資源が分布している。

■ 飛鳥地域の主な観光資源

- 高取町、橿原市、明日香村は古くから一体的な文化圏を形成してきた地域であり、古代王朝関連史跡や古墳、中世の城跡と城下町のまちなみなど様々な時代の史跡が集積する。



《図 指定文化財の位置と時代》

(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

■ 歴史・文化

■ 高取町の各時代における特徴的な出来事

古代
古墳

古墳の築造：大陸からの渡来人たちがもたらした文化が栄えた。統一国家発祥の地である飛鳥地方には多くの古墳が築造された。高取町内でも6世紀から7世紀末にかけて築造された古墳は、大小合わせて800基に及ぶと言われる。

飛鳥、
奈良、
平安

天皇による薬猟：612年、推古天皇が聖徳太子を率いて、高取の羽田(現在の羽内)の山野にて薬猟を行ったと伝えられている。後に高取町が薬のまちとして発展の起源とされる。

土佐等の地名の由来：6世紀初めごろ、大和朝廷の都造りの労役で地方から召し出されたが、任務を終えても帰郷できなかった者たちがこの地に住み着いた。町内に残る「土佐」「吉備」等の地名は、彼らの故郷の地名に由来するという。

中
近
世
鎌
倉

高取城ができる：越智氏が高取山上に掻き揚げ城(簡単な城郭)を築く。戦国時代になると、豊臣秀長の命により、高取城が大改修される。江戸時代には、高取城は譜代大名植村氏が藩主となる。土佐街道は城下町として栄える。

室
町、
戦
国、
江
戸

薬売りが活躍：江戸時代には高取の薬の行商人が「大和の薬売り」として全国に売り歩き活躍した。

天誅組に大砲で反撃：江戸末期、天誅組により高取城は攻撃を受けるが、大砲による反撃等もあり天誅組は敗退。大砲のレプリカの展示や、鳥ヶ峰古戦場の碑が町内に残る。

近
代

高取城の天守閣など取り壊し：廃藩置県で奈良県高取町に。高取城の天守閣などの建物が取り壊される。

明
治、
大
正、
昭
和

薬産業が県の重要産業に：大正時代、高取薬業会が設立される。県の重要産業となる。

俳人 阿波野青畝活躍：高取町出身の俳人、阿波野青畝(あわのせいほ、1899-1992年)が活躍。高取町内にも夢創館ポケットパークや阿波野青畝の生家など5箇所に句碑がある。

強み：高取町を含む飛鳥地域には地域資源が充実している。

2. まちづくり基本構想の基本的な考え方

■ 目的

高取町まちづくり基本構想は、町が保有する資源を最大限に活かし、さらに磨き高めることで、各地区が魅力ある地域へ発展していくことを目的に、基本的なまちづくりの考え方や今後の重点的な取組をとりまとめるものである。

■ 基本理念

地区の魅力高め、住民が生き生きと暮らし、町全体が元気を取り戻せるまちづくりの推進

■ 基本方針

方針1：高取町の価値を次世代に引き継ぐ

高取町に今ある資源を維持し、その価値を高めながら、次世代に引き継ぎ、高取町のブランド力を高める

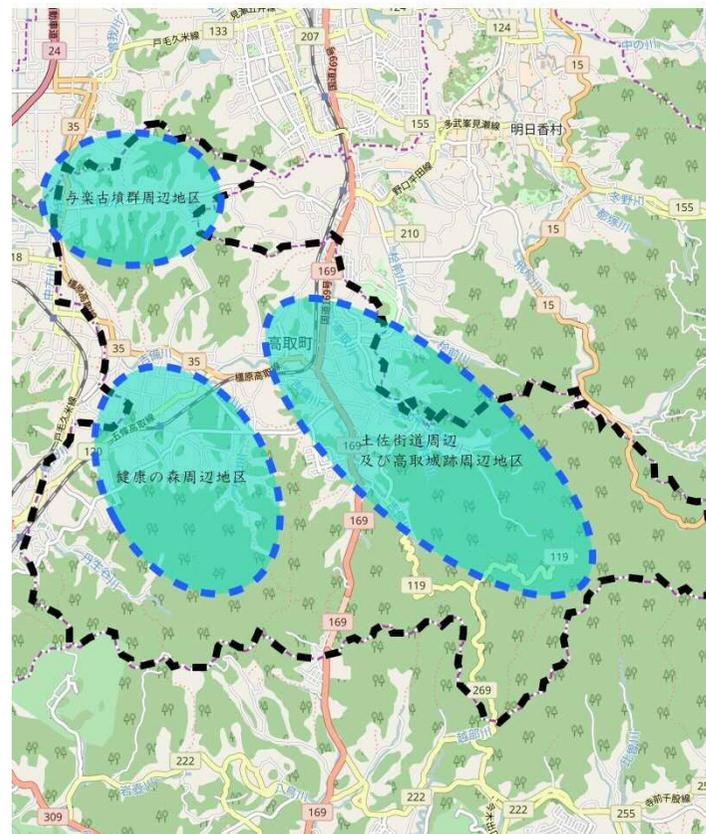
方針2：高取町の魅力向上

潜在的な高取町の魅力を発掘し、磨き高めていくことで、新たな高取町の魅力を創造し、高取町らしさ（アイデンティティ）を構築

方針3：協働・連携による取組

高取町の価値や魅力を町・町民・県で共有し、協働・連携で目標に向かって取組を進めていながら、来訪者や転入者が来てみたいと思う高取、町民が住み続けたいと思う高取のまちづくりを推進

高取町まちづくり位置図



© OpenStreetMap contributors
<http://www.openstreetmap.org>

〔図〕 高取町におけるモデル地区

3. 地区の概要

■ 上位計画における位置づけ

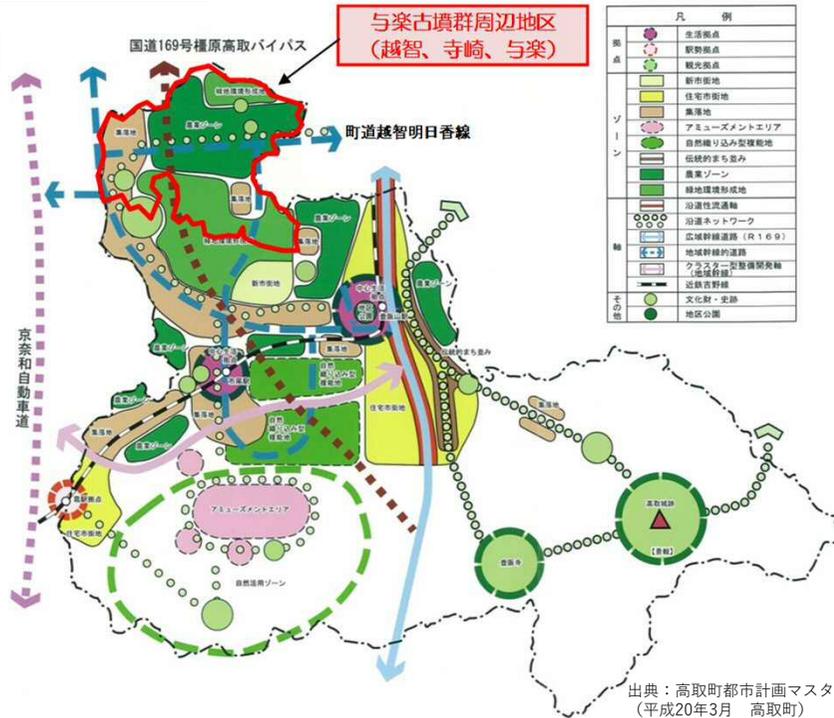
○都市計画マスタープラン（高取町、H. 19年策定）

◆全体構想

「集落地」：曾我川沿川や与楽公民館が立地する周辺

「農業ゾーン」：町道越智明日香線沿道周辺

「緑地環境形成地」：農業ゾーンの南北側



出典：高取町都市計画マスタープラン（平成20年3月 高取町）

○奈良県自然環境保全条例

◆貝吹山景観保全地区

- 指定の目的：新沢千塚を中心とした古墳群並びに貝吹山を主峰とする森林及び丘陵により形成される景観の保全
- 区域：高取町大字寺崎及び越智の各一部、橿原市の一部
- 太陽光パネルも建築物として届出が必要。

⇒対象となる区域以外には適用されない。

また、届出制による行為の制限のみを定めており、耕作放棄地等（後述）の対策としては十分でない。

◆地域別構想

- 無秩序な市街化をくいとする「緑農ゾーン」とし、農業の振興及び景観などの保全を図る。
- 観光・レクリエーション拠点として、貝吹山周辺整備や地域に点在する貴重な歴史・文化資源などの周辺環境の整備とネットワーク化を図る。
- 景観では町道越智明日香沿道、集落周辺などにおいて、観光・レクリエーション施設や公共公益施設などを案内、誘導するための標示・看板などの設置を図るとともに、地域にふさわしい花を植え、フラワーロードを形成する。



出典：高取町都市計画マスタープラン（平成20年3月 高取町）

※町道越智明日香線沿道は田園景観が広がるゾーンとして位置づけられている。

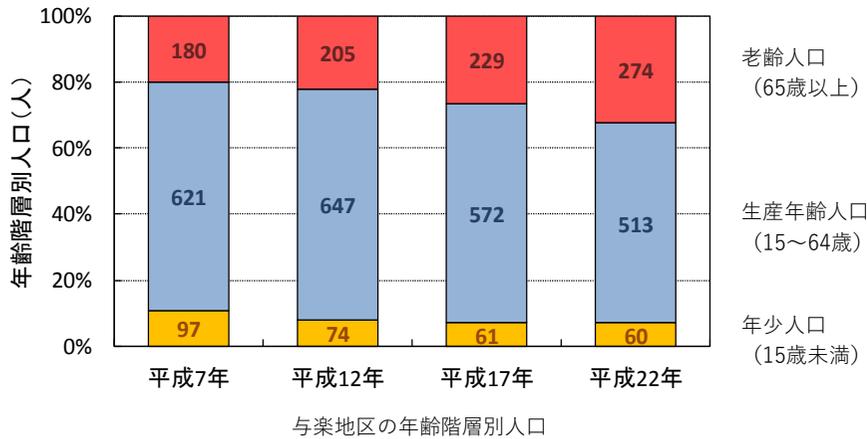
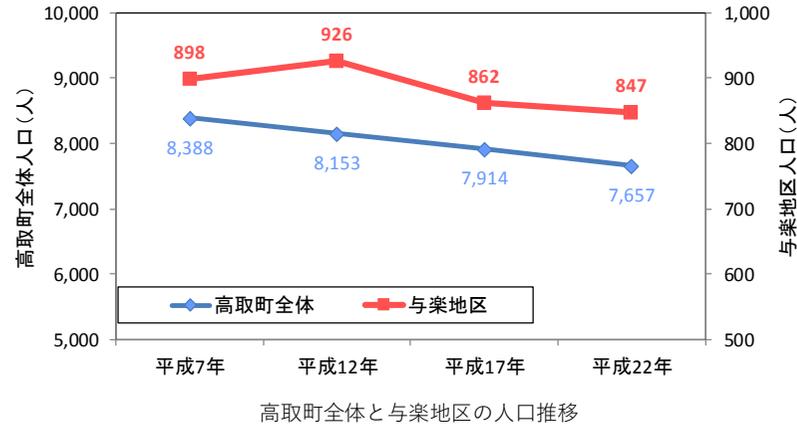
強み：農業振興地域として、まとまった優良農地がある。

弱み：景観保全地区の制度が景観の改善策として十分でない。

3. 地区の概要

■ 人口動態

- 高取町全体の人口は、平成7年以降減少傾向にあり、与楽地区の人口は、平成12年以降減少傾向にある。
- 与楽地区の年齢階級別人口は、高齢者の割合が増加傾向にあり、働く世代が減少している。



(国勢調査 (平成7年~平成22年) データより作成)

脅威：人口減少、少子高齢化の進行

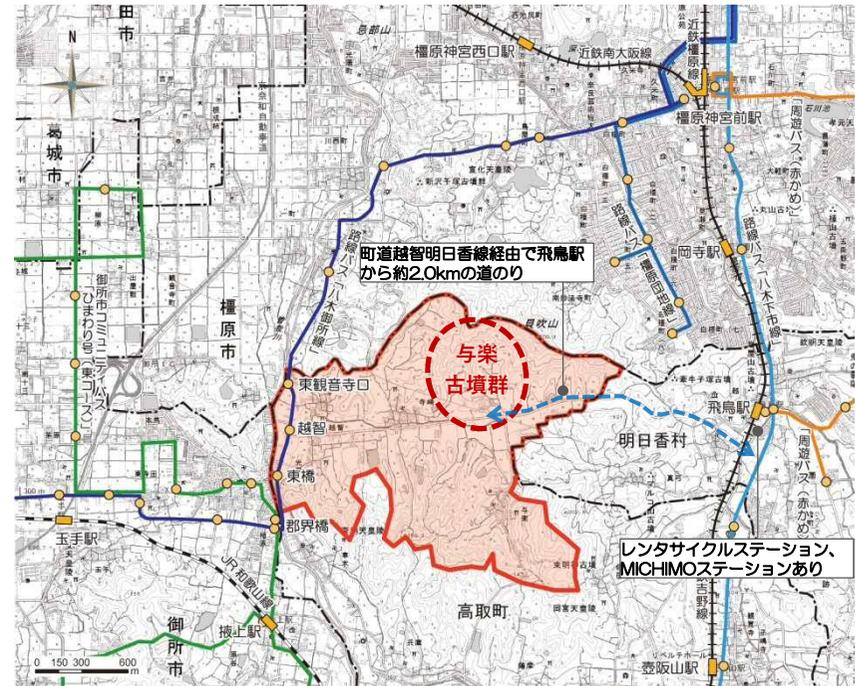
■ 周辺の公共交通について

(1) 鉄道

- 対象地域周辺には鉄道駅がない。
- 地域東側の明日香村に近鉄吉野線の飛鳥駅、南西側の御所市にJR和歌山線の掖上駅がある。

(2) バス

- 区内を通るバスとして、地区西部(越智)に大和八木駅・橿原神宮前駅と御所駅を結ぶ路線バス「八木御所線」が運行。
- 地区周辺では、御所市コミュニティバス「ひまわり号(東コース)」、「周遊バス(赤かめ)」、路線バス「八木下市線」が運行しているが、いずれも区内を通るルートはない。



(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

弱み：区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。

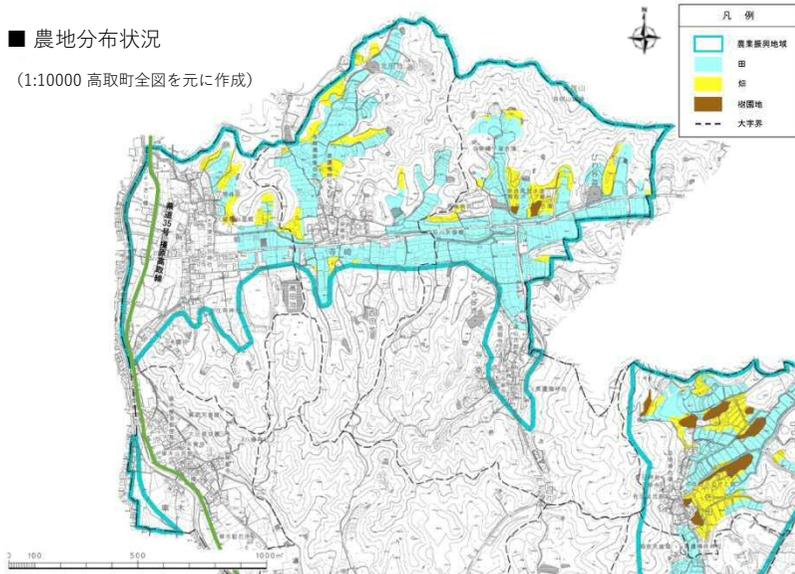
3. 地区の概要

■ 農地の現状

- 本地区は、町内で最大規模の農業振興地域（まとまった地域として）であり、優良農地がある。
- 低地に田が広がり、畑地がその上方に位置する特徴的な農業地域を形成している。樹園地は一部地域にある。
- 農業従事者の高齢化・減少に伴い、耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加傾向にある（p.2グラフ参照）。

■ 農地分布状況

(1:10000 高取町全図を元に作成)



■ 地区の特産品

- 稲作主体である。畑地、果樹園では、かき、いちご、いも、葉物野菜など季節ものを提供。
- 観光目的に、食事を挙げたのはわずか6%（p.10参照）であり、高取の食や農に対する認知度は低いことが伺える。



明日香村の販売拠点

【ヒアリング・地域会議における新規就農者の意見】

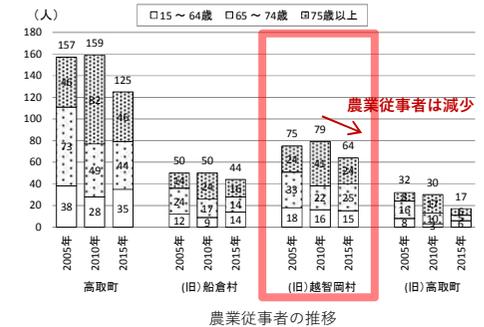
- 高取町の農業のイメージがない。
- 高取町の特産品をつくる。
(例 大和当帰、黒豆、さといも、なす、ズッキーニ、いちご、米 等)
- 地区に農産物の販売場所がない。



高取町農業祭の様子（営農寺崎HPより）

■ 農業従事者の動向

- 75歳以上の人口推移は、どの地域も2005年から2010年にかけて増加し、その後2015年にかけて減少。
- 高齢化率は、他地域と同程度で、76～80%程度の高い数字で推移。
- 高齢化に伴い、農業従事者は急激に減少。将来の継続的な営農困難が予想されるため、新規就農者の定着が必要。



※ 本地区は(旧)越智岡村の一部地域にあたる。
資料：2005年農林業センサス、2010年世界農林業センサス、2015年農林業センサス

- 新規就農者5人(町内6人中)が、寺崎(本地区内)で営農を開始しており、地区内に新規就農者を受け入れやすい環境がある。

【ヒアリング・地域会議における新規就農者の意見】

- 農地の近くに住みながら農業をしたいが、空き家がない。
- 使いやすい農地の提供をしてほしい。
- 町のブランド力を向上させると農作物も売れるのではないか。
- 高取町で統一した作物、販売システムを構築してほしい。

■ 営農寺崎の取組

- 「え～のお～てらさき」(営農寺崎)は、集落営農グループとして2009年3月に設立し、遊休農地の解消のためにオーナー制度、研修会等により農業機械の共同化や地域農業の振興を実施。
- 将来の担い手作りをして10年後20年後も今ある農村風景の保全を目指す。



営農の様子
出典：営農寺崎HP

強み：農業振興地域として、まとまった優良農地がある。
新規就農者が営農開始し、農業従事者など地域の担い手候補がいる。
地域に新規就農者の受け入れ体制がある。

弱み：耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加している。
高取町の農や特産品の知名度が低い。農作物等の販売拠点が少ない。
高齢化・人口減少が進行し、将来の継続的な営農困難が想定される。
新規就農者の定着が必要。

3. 地区の概要

■ 地区の景観特性

- 与楽古墳群周辺地区は、貝吹山などの山地に囲まれた、山裾に広がる良好な田園景観を形成しており、与楽古墳群と合わせて本地区の代表的な景観を創出している。
- 貝吹山周辺の寺崎、越智の一部は「貝吹山景観保全地区」に指定され、景観の保全が図られている。



地区を東西に貫く町道からは、貝吹山等の山地を背景とした田園景観を眺められる。



水田に囲まれた与楽罐子塚古墳
(古墳脇には、耕作放棄地あり。)



町道沿いのシンボル性の高い与楽カンジョ古墳
(手前に修繕されない資材置き場等あり。)

強み：古墳のある特徴的な田園景観が維持されている。古墳が町道沿いに立地するため、認識しやすい。(シンボル性がある。)

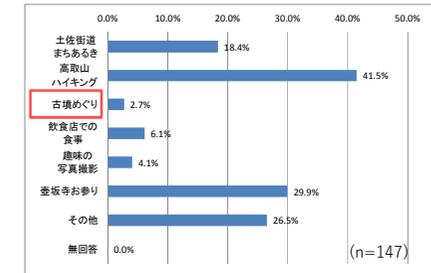
弱み：耕作放棄地や修繕されない資材置き場等が、田園景観の阻害要因となっている。

■ 観光動態の現状

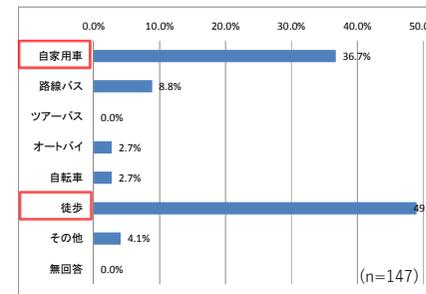
<観光アンケート調査結果>

- 高取町への観光の目的として「古墳めぐり」を挙げた人は4人 (2.7%) に留まり、町内の古墳が十分に周知されていないと考えられる。
- 高取町内での交通手段は、「徒歩」と回答した人が最も多く72人 (49.0%)、続いて「自家用車」が54人 (36.7%)となっていた。
- 今回の旅行で訪れた先とこれから訪れる先は、「明日香村」が最も多く45人 (30.6%)、次に多いのが「榎原市内」で16人 (10.9%)であった。

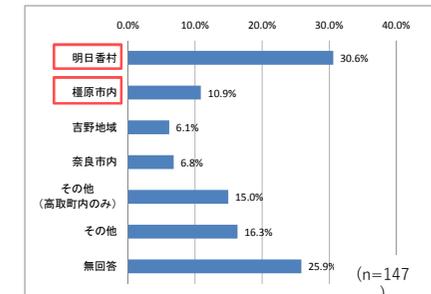
■高取町への観光の目的は何ですか。



■高取町内での交通手段を教えてください。



■今回の旅行で、訪れた先とこれから訪れる先を教えてください。



- 日時：平成28年5月28日 (土)・平成28年6月4日 (土) 8:30~15:00
- 方法：調査票を用いて、調査員が観光客に対して対面でヒアリング調査を実施
- 実施場所：夢創館、わくわく市場、砂防ダム、壺坂寺
- サンプル数：147人

機会：明日香村・榎原市と合わせて訪れる人が多い。

弱み：古墳めぐりを目的として高取町に訪れる人が少ない。地区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。(p.8参照)

3. 地区の概要

■ 地域資源について

- 高取町内には、数多くの古墳が残されており、対象地域内の与楽から寺崎にかけては、国指定史跡の与楽カンジョ古墳・与楽罐子塚古墳、寺崎白壁塚古墳が分布。
- 整備後の維持管理・運営体制は構築されていない。（市尾墓山古墳では、地元による体制あり。）
- 越智谷は中世越智氏の本拠地であり、越智城跡や貝吹山城跡、光雲寺などの越智氏ゆかりの旧跡が点在している。



強み：与楽古墳群が国指定史跡となり、整備計画に基づき周辺整備中（H. 35完成予定）である。
地区内に古墳群や貝吹山等の地域資源がある。

■ 与楽古墳群（国指定）

- 与楽古墳群は、古墳時代後期・終末期の奈良県において卓越した内容をもつ首長墓であり、古墳の墳形及び埋葬施設の構造の変遷をたどることができる点で貴重であること、渡来系氏族の動向を知る上で重要であることから、2013年に史跡名勝天然記念物に指定された。

【与楽古墳群保存管理・整備計画の整備方針】

- 遺構の保存のための整備。
- 歴史学習の場やレクリエーションの場、街のシンボルとしての活用を考慮した整備。
- 各古墳を園路・遊歩道で結び古墳群全体としての活用の検討。



与楽カンジョ古墳整備計画平面図
与楽古墳群保存管理・整備計画範囲
資料：国指定史跡与楽古墳群保存管理・整備計画

【地域会議における住民の意見】

- 与楽古墳群のことは知らなかった。町民でも知らない人が多いのではないかと。
- 古墳の存在は知っていたが、どのような古墳かまでは理解していない。
- 古墳に行く際の道に歩道がない。誘導案内もない。

弱み：古墳群の維持管理・運営体制がない。
古墳群への歩行経路が整備されていない。
地域資源間の案内が不足し、地区内の資源を有効に活用できていない。

3. 地区の概要

■ 周辺自治体の近年の動向

■ 広域連携に関する動向

① 飛鳥観光案内サイン整備計画

(平成27年3月国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所)

- ・ 橿原市、明日香村、高取町の観光客周遊の支援のため、地域内の各団体が連携し共同で観光案内サインを設置する計画。

② 日本遺産の認定

「日本国創生のとき～飛鳥を翔た女性たち」
(平成27年度認定)

- ・ 高取町は構成要素を含む地域として、橿原市、明日香村と一体となり認定を受ける。
- ・ 対象区域には、構成要素の「高取城跡猿石」「光永寺人頭石」「芋峠」が位置する。



《写真 飛鳥観光案内サイン》

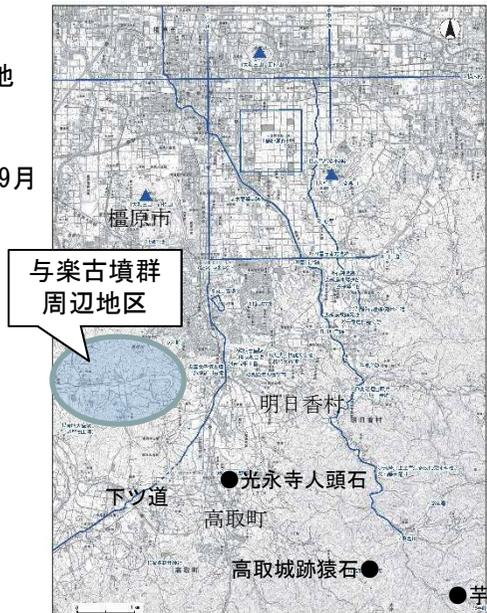
■ 隣接自治体に関する動向

① 国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」の開園

- ・ 明日香村内の国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」が平成28年9月に開園した。



《写真 開園した国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳地区」》



《図 町内の日本遺産を構成する文化財位置図》

資料：日本国創生のとき～飛鳥を翔た女性たち

② 明日香村が(株)星野リゾートホールディングスと「企業立地に関するパートナーシップ協定」を締結

- ・ 明日香村と株式会社星野リゾートホールディングスは、平成28年10月28日に、明日香村における企業立地の推進と、企業活動が地域に根ざした発展に資することを目的として、パートナーシップ協定を締結。明日香村真弓地区内を候補地として宿泊施設を立地する事業が進められる。



《写真 誘致場所 明日香村真弓地区内》 資料：明日香村HP

③ 橿原神宮前に新たな観光案内所がプレオープン

- ・ 橿原市で2カ所目の観光案内所が、平成28年10月にプレオープン（平成29年3月末まで）。
- ・ 観光案内や相談、観光情報発信、観光関連チケット等の販売、宿泊の紹介、インターネット接続可能なPC又はI-Padの設置やユニバーサル対策を実施。



《写真 かしはら観光インフォメーションセンター》

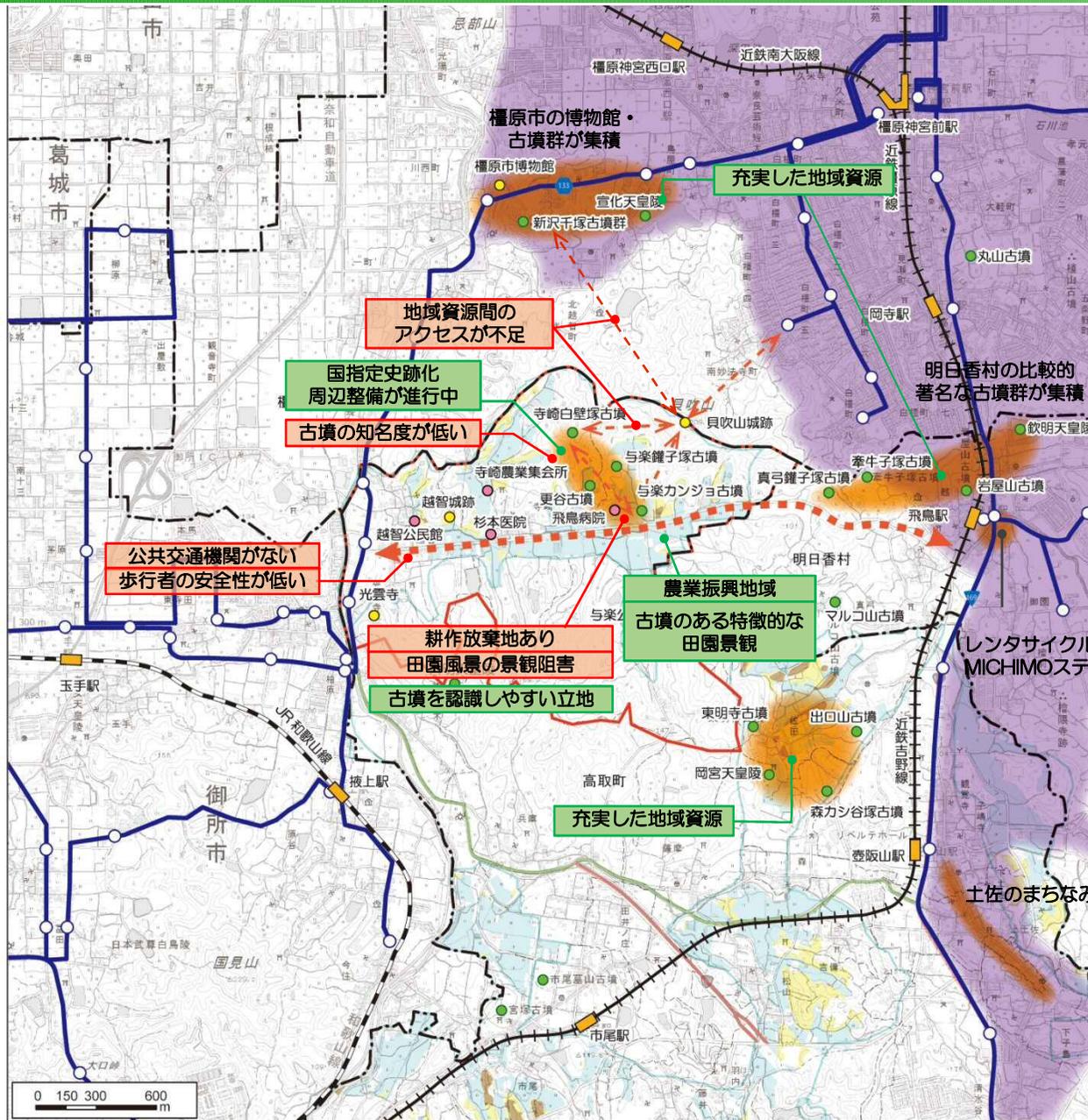
出典：橿原市観光協会HP

機会：飛鳥地域の周遊に関する計画が進められている。
本地区近傍に明日香村が宿泊施設を誘致する計画がある。

脅威：地方創生に向け、他自治体も地域資源等を活かしたまちづくりを加速している。

3. 地区の概要

■ 対象地区の現状



- 凡例
- 対象地域
 - バス路線
 - 農業振興地域
 - 田
 - 畑
 - 樹園地
 - 古墳
 - その他観光資源
 - 公共施設等
 - MICHIMO 走行可能エリア
 - 地域資源集積エリア

- 【農業全般】
- 農業従事者の減少、高齢化
 - 農業のイメージ・知名度がない (ブランド力がない)
 - 農産物の販売所が少ない
 - 薬草を用いたプロジェクト
 - 新規就農者の受け入れ体制

- : 地区の強み
- : 地区の弱み

(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

4. 地区の課題整理

■ 対象地区の強み、弱みの整理

(1) 農業の現況

	強み		弱み	
農地 (働く場)	優良農地の存在	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興地域として、まとまった優良農地がある。 	働く場・拠点の未整備	<ul style="list-style-type: none"> 耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加している。 農作物等の販売拠点が少ない。
特産品 (ブランド化)	薬草プロジェクトの進行	<ul style="list-style-type: none"> 町の特産品である薬草を用いたプロジェクトが進行している。 	農のブランド力不足	<ul style="list-style-type: none"> 高取町の農や特産品の知名度が低い。
地域の担い手	新規就農者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者が営農開始し、農業従事者など地域の担い手候補がいる。 地域に新規就農者の受け入れ体制がある。 	農業従事者の減少	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化・人口減少が進行し、将来の継続的な営農困難が想定される。 新規就農者の定着が必要。
田園景観	特徴的な田園景観	<ul style="list-style-type: none"> 古墳のある特徴的な田園景観が維持されている。 	田園景観の阻害	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地や修繕されない資材置き場等が、田園景観の阻害要因となっている。 景観保全地区の制度が景観の改善策として十分でない。

(2) まち・地域の現況

	強み		弱み	
古墳群の魅力	古墳群の国指定史跡化	<ul style="list-style-type: none"> 与楽古墳群が国指定史跡となり、整備計画に基づき周辺整備中(H.35完成予定)である。 	知名度不足・体制不足	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域の観光客数に対し高取町への観光客数は少ない。 古墳めぐりを目的として高取町を訪れる人が少ない。 古墳群の維持管理・運営体制がない。
古墳群へのアクセス性	認識しやすい立地	<ul style="list-style-type: none"> 古墳が町道沿いに立地するため、認識しやすい。(シンボル性がある。) 	アクセスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 地区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。 古墳群への歩行経路が整備されていない。
地域資源	充実した地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地区内に古墳群や貝吹山等の地域資源がある。 高取町を含む飛鳥地域には地域資源が充実している。 高取町を含む周辺地域の観光客数は奈良県下で最も多い。 	地域資源の未活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源間の案内が不足し、地区内の資源を有効に活用できていない。

4. 地区の課題整理

■ 対象地区周辺を取り巻く機会、脅威(外部要因)の整理

(1) 農業の現況

	機会	脅威
持続可能な農業	<p>交流人口が増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、奈良県の観光客数は増加傾向にある。 明日香村・橿原市と合わせて訪れる人が多い。 	<p>担い手の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化の進行 10～20代の定住意向が低い。 農業従事者の減少、高齢化
魅力的な農業	<p>「農」に対する関心が向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮な農産物に対するニーズの高まり (図1参照) 自然、文化、交流、体験等の魅力 (図1参照) 	<p>持続的な農業経営への転換が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業をとりまく環境の厳しさ (図2参照) 他地域も農産物などを活かした新たな価値の創出を推進 (図3参照)

(2) まち・地域の現況

	機会	脅威
まち・地域の魅力向上	<p>交流人口が増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、奈良県の観光客数は増加傾向にある。 明日香村・橿原市と合わせて訪れる人が多い。 	<p>観光を通じた地域の活性化が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化の進行 10～20代の定住意向が低い。
広域連携による観光振興	<p>周辺地域との一体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛鳥地域の周遊に関する計画が進められている。 本地区近傍に明日香村が宿泊施設を誘致する計画がある。 	<p>高取町らしい魅力の向上が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生に向け、他自治体も地域資源等を活かしたまちづくりを加速している。

■ 農業の機会・脅威に関連した参考データ (農林水産省「平成27年度食料・農業・農村白書」より抜粋)

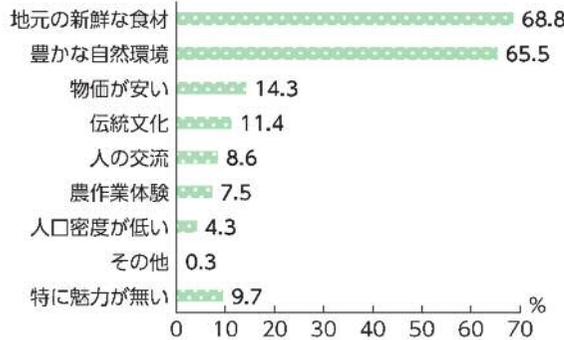


図1.農山漁村の魅力

* 消費者を対象にした調査では、「地元の新鮮な食材」、「豊かな自然環境」に魅力を感じる割合が高く、若い世代ほど体験に強い興味を寄せるなど農業に対する関心の高さがうかがえる。

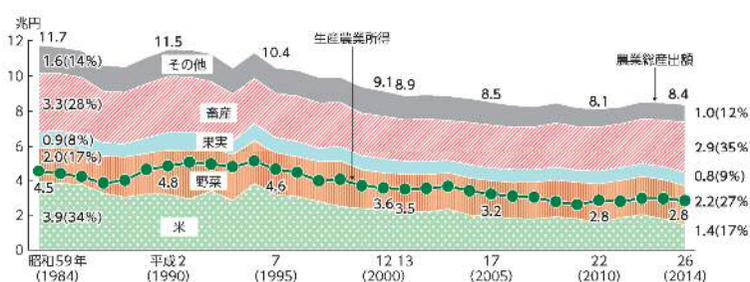


図2.農業総産出額および生産農業所得の推移

* 我が国の農業総産出額は、昭和59 (1984) 年に11兆7千億円に達したが、その後、減少傾向となり、平成13 (2001) 年以降は8兆円台で推移。生産農業所得は、平成25 (2013) 年の2兆9千億円から1千億円減少。これは、農業総産出額の減少に加え、物的経費の飼料費や光熱動力費等が増加したことが要因と考えられる。



図3.農家レストランの年間販売額及び従業者数の推移

* 農産物をそのまま出荷するのではなく、ニーズに対応した加工、直売などによる高付加価値化を図るほか、観光農園、農家レストランや農家民泊等の事業展開を図っている。

4. 地区の課題整理

■ SWOT分析による課題の整理(農業)

	<機会> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口が増加 「農」に対する関心が向上 	<脅威> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の不足 持続的な農業経営への転換が必要
<強み> <ul style="list-style-type: none"> 優良農地の存在 薬草プロジェクトの進行 新規就農者の増加 特徴的な田園景観 	<強みを活かして 機会を勝ち取るためには> <ol style="list-style-type: none"> ①観光客や交流人口増加と併せて、高取の農をPR ②地域と観光客をつなぐ拠点の形成 	<強みを活かして 脅威を機会に変えるには> <ol style="list-style-type: none"> ③多様な担い手の育成・確保
<弱み> <ul style="list-style-type: none"> 働く場・拠点の未整備 農のブランド力不足 農業従事者の減少 田園景観の阻害 	<弱みを補強して 機会をつかむためには> <ol style="list-style-type: none"> ④良好な田園景観の維持・創出 ⑤高取農ブランドのイメージ構築 	<弱みから最悪の シナリオを避けるためには> <ol style="list-style-type: none"> ⑥魅力ある農業経営の確立

参考:各課題に見る住民・農業従事者の意見

抽出された課題	地域会議等における住民・農業従事者の意見
①観光客や交流人口増加と併せて、高取の農をPR	<ul style="list-style-type: none"> 高取町が農業が盛んであるというイメージが希薄である。
②地域と観光客をつなぐ拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> 農産物を販売する直売所が町内に少ない。
③多様な担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者は、高取の農業にとって重要な役割を担っている。 新規就農者の支援体制を充実してほしい。
④良好な田園景観の維持	<ul style="list-style-type: none"> 古墳周辺の良好な田園景観は町の原風景である。
⑤高取農ブランドのイメージ構築	<ul style="list-style-type: none"> 高取町の特産品がなく、ブランド力も低い。
⑥魅力ある農業経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> 農業従事者の高齢化が進み、将来に不安がある。 農業しやすいしくみの構築が必要ではないか。

4. 地区の課題整理

■ SWOT分析による課題の整理(与楽古墳群)

	<機会> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口が増加 周辺地域との一体的な取組 	<脅威> <ul style="list-style-type: none"> 観光を通じた地域の活性化が必要 高取町らしい魅力の向上が必要
<強み> <ul style="list-style-type: none"> 古墳群の国指定史跡化 認識しやすい立地 充実した地域資源 	<強みを活かして機会を勝ち取るためには> <ul style="list-style-type: none"> ①整備される与楽古墳群を活かして明日香地域からの誘客 	<強みを活かして脅威を機会に変えるには> <ul style="list-style-type: none"> ②地域資源を活かした地域の誇りの醸成
<弱み> <ul style="list-style-type: none"> 知名度不足・体制不足 アクセスが悪い 地域資源の未活用 	<弱みを補強して機会をつかむためには> <ul style="list-style-type: none"> ③奈良県、明日香地域を訪れる観光客への与楽古墳群のPR ④明日香地域からの案内情報の充実 	<弱みから最悪のシナリオを避けるためには> <ul style="list-style-type: none"> ⑤地域の運営・維持管理体制の構築 ⑥多様な世代が利用できるアクセス手段の構築

参考:各課題に見る住民・農業従事者の意見

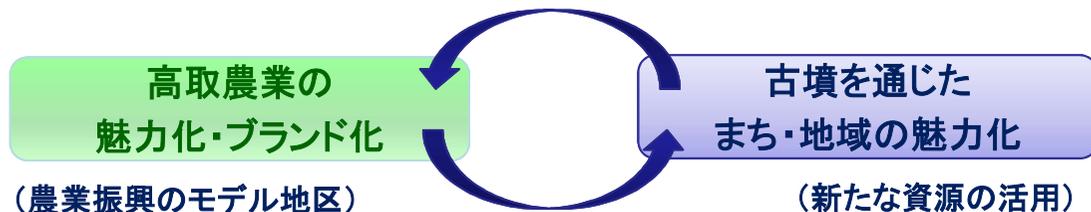
抽出された課題	地域会議等における住民・農業従事者の声
①整備される与楽古墳群を活かして明日香地域からの誘客	<ul style="list-style-type: none"> 知名度のある明日香村や橿原市等と連携してはどうか。
②地域資源を活かした地域の誇りの醸成	<ul style="list-style-type: none"> 町内の人でも与楽古墳群を知らない人が多い。
③奈良県、明日香地域を訪れる観光客への与楽古墳群のPR	<ul style="list-style-type: none"> 古墳の魅力を知ってもらう取組が必要ではないか。
④明日香地域からの案内情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 小さな案内板しかなく、場所がわかりにくい。 説明をしてもらいながら案内してもらうとわかりやすい。
⑤地域の運営・維持管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 整備後の維持管理を誰が、どのようにするのかは課題である。
⑥多様な世代が利用できるアクセス手段の構築	<ul style="list-style-type: none"> 道路に歩道がなく、駐車場等もないため、アクセスが困難である。

5. コンセプト、目標

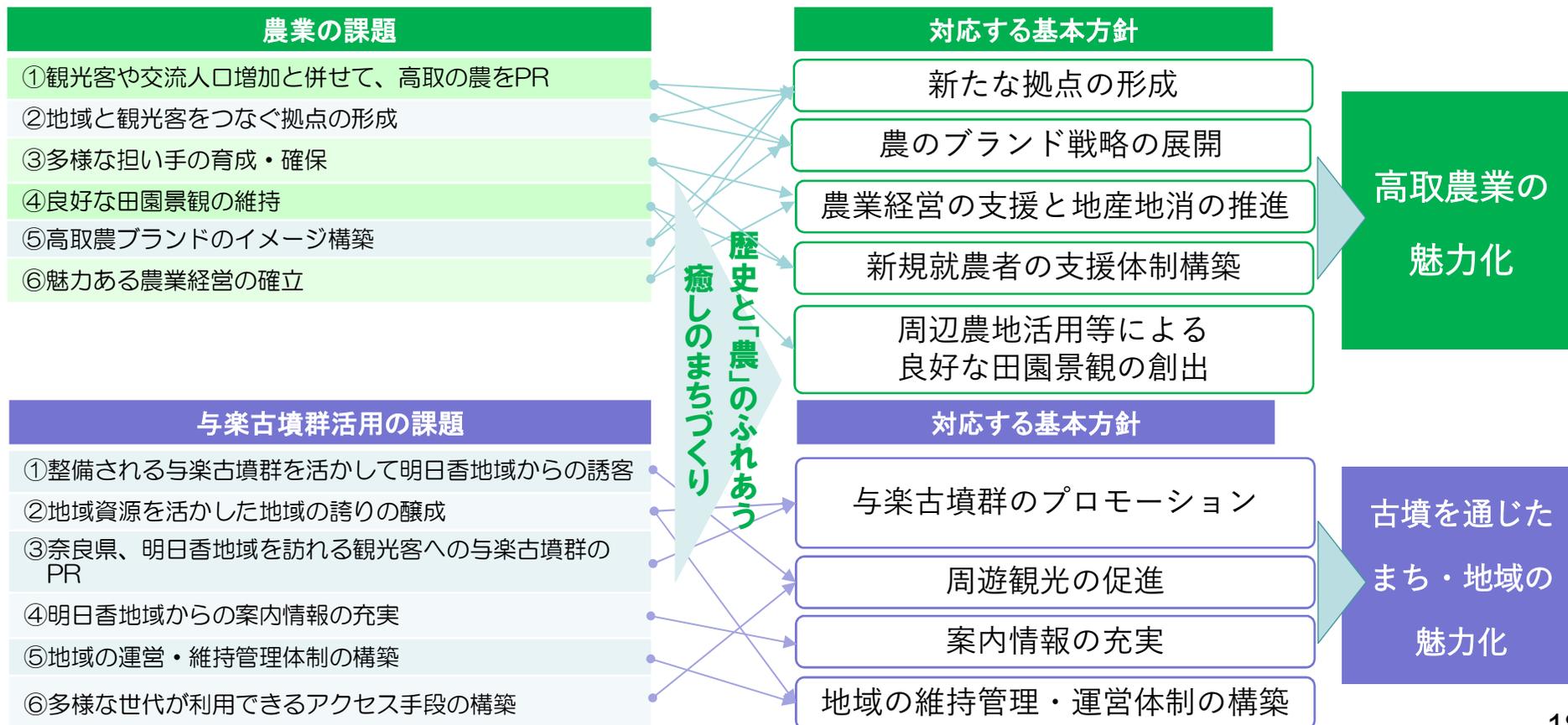
<コンセプト>

歴史と「農」のふれあう癒しのまちづくり

与楽古墳群の公園整備を契機に、来訪者の増加と住みやすいまちづくりの推進と、高取の自然の恵みである「農」の振興を通じた、心と体の癒しを感じるまちづくりを進めます。



6. 基本方針



7. 基本となる取組

■ 基本方向に基づく施策

心と体の癒しを感じるまちづくりを具体化するための施策を以下に示す。

	対応する基本方針	基本となる取組
高取農業の 魅力化	<ul style="list-style-type: none"> 新たな拠点の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 農産物販売所の新設、有効活用 地域と連携した耕作放棄地の利活用
	<ul style="list-style-type: none"> 農のブランド戦略の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 特産品の開発(例:葉のまち等) 高取町の農業の広報・PRの充実 グリーンツーリズムメニューの開発 (野菜オーナー制、米作り体験、農家民泊など)
	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の支援と地産地消の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 営農組合や農業従事者の経営安定に向けた支援強化 地産地消を推進するための町内への啓発や流通ルートの開拓
	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の支援体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者への支援強化(国・県・町の役割分担による支援)
	<ul style="list-style-type: none"> 周辺農地活用等による良好な田園景観の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳と農地が調和した、持続的な良好な景観形成
	対応する基本方針	基本となる取組
古墳を通じた まち・地域の 魅力化	<ul style="list-style-type: none"> 与楽古墳群のプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳の周知、HPやパンフレット等による情報提供
	<ul style="list-style-type: none"> 周遊観光の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳群や貝吹山を結ぶ周遊ルート(フットパス)の整備、眺望を楽しむ拠点整備 橿原市や明日香村と連携した周遊観光の促進 公共交通、自動車、自転車、徒歩等の移動手段に応じたアクセス手段の強化
	<ul style="list-style-type: none"> 案内情報の充実 	<ul style="list-style-type: none"> アクセス路を設定し、古墳への案内・誘導サインの整備 古墳を案内するツアーやガイド等のしくみづくり
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の維持管理・運営体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を中心とした古墳周辺整備後の維持管理・運営体制の構築

7. 基本となる取組

■ 施策の具体化のための基本的な考え方

高取農業の 魅力化・ブランド化

【現況】

- ・ 高取町の農ブランドの知名度が低い
- ・ 周遊ルートができていても地区内に拠点がない。来訪者が増えることでお金が落ちる仕組みが必要
- ・ 新規就農者のモチベーションを高め、活躍できる場の創出

【施策の具体化に向けた方針】

与楽古墳群と併せて高取町の「農」の魅力のアピールする場、農業従事者の活躍の場となる新たな拠点形成にむけた検討を進めます。

～拠点のイメージ～

与楽古墳群地区の来訪者が休憩したり、高取の「農」にふれあう拠点の創出に向けた検討を行います。



出典：高取町観光ガイドHP

例1) 農産物の直売所

町内には土佐街道に「わくわく市場」がありますが、与楽古墳群周辺地区にも直売所を設けることが考えられます。



例2) 農家レストラン

高取でとれた野菜を使った料理を提供する飲食施設の設置も考えられます。地元の主婦の起業・就労の場としての展開も想定されます。



例3) 足湯

高取町周辺では温泉施設は少ないですが、ハイキング利用者の需要は高いと想定されます。「薬のまち」のPRをかね、主婦の薬草湯の足湯が考えられます。

施策の取組イメージ

新規就農者の支援

高付加価値の農作物の販売や、規格外農作物の有効活用による、収入の安定



新規就農者、地域等のネットワークの構築

例) 「人・農地プラン」の作成による話し合いを通じた問題解決の方向性を検討

例) 農地中間管理機構の活用等による農地集約や新規就農者への良好な農地の提供

例) 空家・農地の情報提供、農機具の提供等の新規就農者を支援する地域の体制構築や気運の醸成



関係者をあげた新規就農者の支援体制

農のブランド戦略の展開

特産品の開発

- ・ 県内11市町村が関わる「奈良の薬」をテーマに日本遺産登録にむけた取組が推進中
- ・ 「漢方推進プロジェクト」による大和当帰を使った特産品の開発



グリーンツーリズムメニューの開発

現在、毎年夏に開催される「どろんこ祭」



出典：奈良県HP

7. 基本となる取組

■ 施策の具体化のための基本的な考え方

古墳を通じた まち・地域の魅力化

【現況】

- ・ 与楽古墳群の知名度が不足
- ・ 高取町の来訪者は、明日香村・橿原市も周遊

【施策の具体化に向けた方針】

観光地として知名度の高い橿原市や明日香村と連携した広域連携の中で、与楽古墳の活用を進めます。

～具体的な取組イメージ（先行事例等）～

●飛鳥広域行政事務組合

橿原市、高取町、明日香村の3市町村を一つの圏域として様々な事業や連携した取組を実施しています。具体的には、広域文化の育成・発信や、地域交流の推進として3市町村が連携した観光資源の情報発信や観光資源の活用を進めています。

●日本遺産「日本国創成のとき－飛鳥を翔（かけ）た女性たち－」のストーリー

橿原市、高取町、明日香村が文化庁に申請し、平成27年4月24日に「日本遺産」に認定されました。3市町村が関係団体と連携のもと、日本遺産に認定されたストーリーとそれに登場する文化財等を中心に情報発信、普及啓発等の事業に順次取り組み、郷土に対する誇りと愛着を醸成するとともに、観光や地域の魅力を高め、国際的に飛鳥の知名度の向上を図っています。

●明日香村のまちづくり

明日香村も高取町と同様に奈良県とまちづくり包括協定を締結し、「飛鳥駅周辺地区」として、与楽古墳群周辺地区東側に続くエリアが対象となっています。



施策の取組イメージ

与楽古墳群のプロモーション

与楽古墳群の主な特徴

渡来人の最先端の流行を反映した3古墳
(時代・埋葬形式の変化を実感できる)



与楽カンジョ古墳
石室高さ5.3mで横穴式石室で奈良県一(7世紀前半)



与楽罐子塚古墳
半径28mの円墳 石室高さ5.0m (6世紀後半)



寺崎白壁塚古墳
方台形で一辺30mの横穴式石室 終末期の家族墓への移行を示す (7世紀中頃)

遺跡マップ

高い古墳密度を誇る与楽古墳群
(狭いエリアに約100基の古墳あり)



市尾墓山燈火会での古墳ライトアップ (高取町市尾大字自治会)

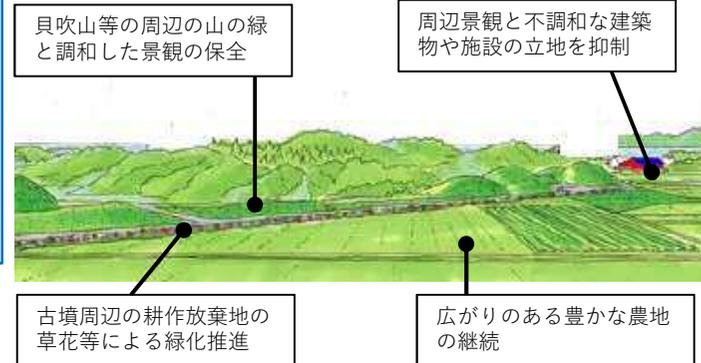


- 石舞台古墳の高さを越える玄室が築かれた**与楽カンジョ古墳**
- 田園の中に尖った墳丘が印象的な古墳時代終末期の**与楽罐子塚古墳**
- 風水思想を反映した立地にそびえる**寺崎白壁塚古墳**

パワースポット、ここでしか見られない古墳であること等、古墳のプロモーション方法を工夫

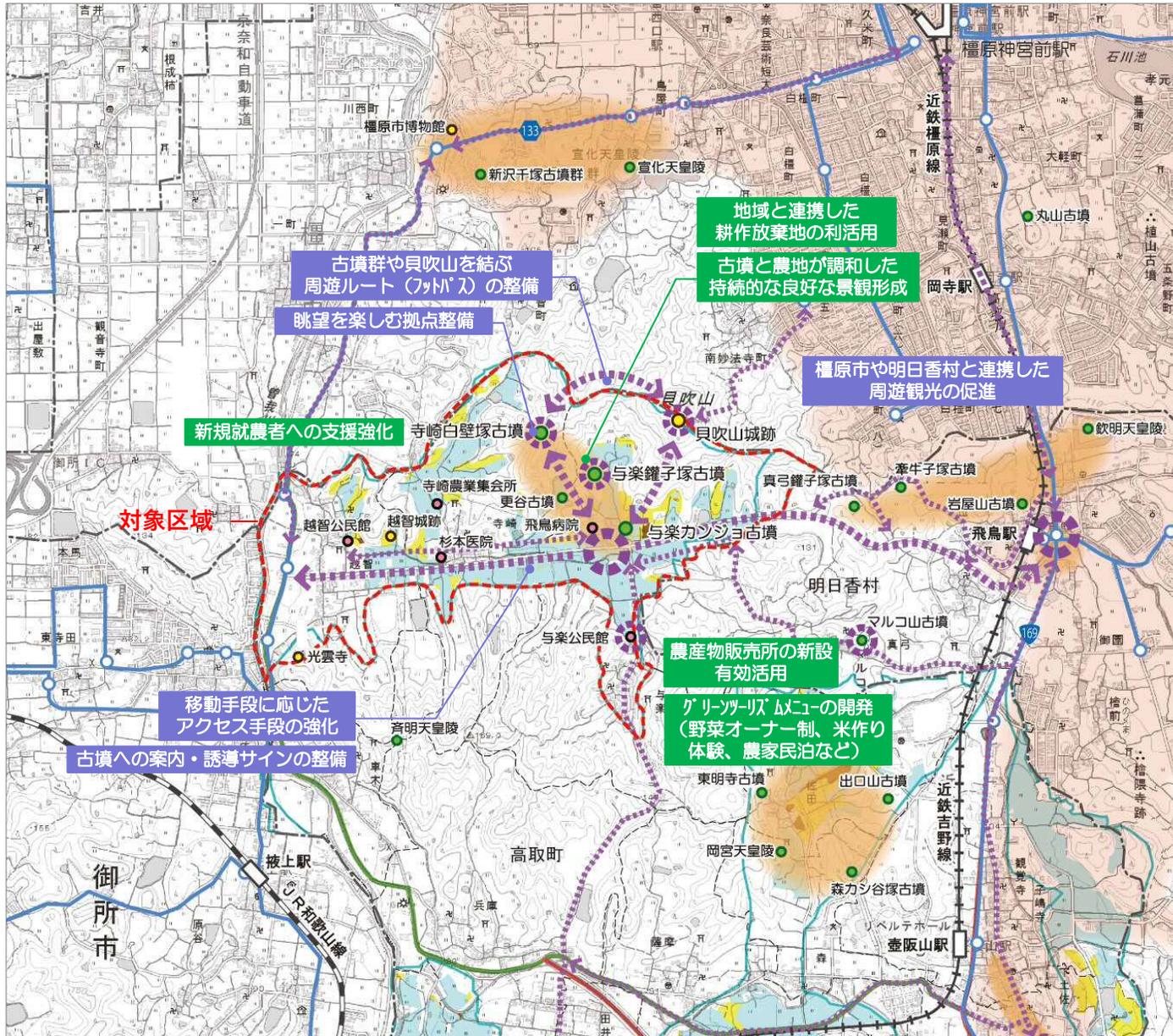
周辺の農地を含めた良好な景観、空間の創出

高取の原風景を次世代に残す



8. 基本構想図

■ まちづくり構想図(案)



凡例

 	対象区域
↔	経路
—	バス路線
—	農業振興地域
■	田
■	畑
■	樹園地
●	古墳
●	その他観光資源
●	公共施設等
 	MICHIMO 走行可能エリア
 	地域資源集積エリア

 : 高取農業の魅力化
 : 地域の魅力化

- 【高取農業の魅力化全般】**
- 営農組合や農業従事者の経営安定に向けた支援強化
 - 地産地消を推進するための町内への啓発や流通ルートの開拓
 - 特産品の開発
 - 高取町の農業のPR

- 【地域の魅力化全般】**
- 古墳の周知、HPやパンフレット等による情報提供
 - 古墳を案内するツアーやガイド等のしくみづくり
 - 地域の維持管理・運営体制の構築

(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

8. 基本構想図

■ 将来イメージ(案)

<コンセプト>

歴史と「農」のふれあう癒しのまちづくり

